

むかしのくらし展 学校編

会期…令和6年12月14日(土)

～令和7年3月16日(日)

毎年開催している「むかしのくらし展」。令和6年度は「学校編」とし、学校ならではの行事を紹介する「学校の1年」、思い出深い学校生活を振り返る「学校の1日」の二つの視点で、主に昭和30年代から50年代の資料を展示しました。

「学校の1年」

運動会のプログラム、学芸会で使われた楽器、修学旅行の手引き、卒業証書や卒業文集などのほか、当時の行事の写真をパネルにして紹介しました。



修学旅行の紹介コーナー
画面右の三角形のものは土産品のペンダント

「学校の1日」

展示コーナー正面に、教室に温かい音色を響かせていた足踏みオルガンを据え置きました。その周囲には、木製の机・椅子、給食のアルマイト食器、駄菓子屋のおもちゃなどを展示しました。また、関連資料として、職員室で使われていた謄写版(ガリ版)などの道具も展示しました。

来場者は、自らの学校での日々、共に過ごした友人や恩師に思いを巡らせていました。会場では、同級生と一緒に鑑賞し「あの頃の給食にはご飯はなくてコッペパンだった。懐かしい」と思いついた花を咲かせたり、偶然、展示写真に知人を発見した来場者が、職員に思い出を語ったりする姿が見られました。



コーナー正面の足踏みオルガン
手前は児童たちが使った木製の机と椅子

六ッ門だより

六ッ門図書館展示コーナーで、日常的に文化財の資料に触れるようになって5年目の職員です(歴史を学んだのは高校までです)。

古い写真は撮影当時の様子を伝える貴重な資料…とは知っていましたが、こちらに来てようやく、面白さの一端を知った思いでいます。

例えば、右の写真。初めて目にしたときは、看板やのぼり(のぼり)が目立つ人の往来が多い通りだなあ(久留米にこんな街並みがあったのか)が感想でした…。

和装にも洋装にもカンカン帽が素敵と思いながら、解説に目を向けると、この写真は「最盛期の三本松通り」で昭和7年(1932)に撮影された写真とのこと。「〇に万」の立て看板は、久留米に初めてできたデパートで、昭和5年(1930)開業の「丸万マーケット」、その奥に並ぶ街灯は『鈴蘭燈』で昭和天皇即位記念に設置された、と知りました。

そういった歴史的な背景を知った途端、写真の上を滑っていた視線のピントが合ったように、当時、久留

米の人々がまだ珍しかった街灯の下、賑やかな通りにできたマーケットに通う情景が、より現実味を帯びて感じられ面白くなりました。今では、他にも古い写真を前にすると、過去を語る詳細はないか?とすみずみまで見るようになりました。

なお、この通りは現在、三本松公園の北側に60m程が残る静かな通りとなっています。



出典『カメラがとらえた久留米の100年 私の街私の時代』
※久留米市内の図書館で貸出しています